

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



今年は美しく  
羽ばたきましょう。  
—ツルー



大和市民活動センター[拠点やまと] 第36号 2010年1月20日発行



今号から3回シリーズで、昨年 11/21(土)～11/23(月・祝)に開催されたドラマティックカンパニーYamato50主催の「わが街やまと～ドラマティックな絵画展～」で選ばれて展示された作品が表紙に登場します。第1回目は伊藤愛莉さん(柏木学園高校2年)の作品です。

絵:伊藤愛莉「私と未来」

自分の想像した未来の世界を描いてみました。中央の子は自分の好きなアーティストをモデルに描きました。

\*この表紙の絵は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

☆☆☆☆☆ 大和市民活動センター “ハード” から “ソフト”へ Change! ☆☆☆☆☆

広報誌「あの手この手」をご覧のみなさま、お正月はいかがお過ごしでしたか。新たな年に気持ちも新たに活動を始めたことでしょう。みなさまにとって飛躍の年になるように市民活動センターもエンジン全開でお待ちしております。当初、駅から近く会議室や印刷機の利用ができるから市民活動センターに登録したという団体が多かったので

すが、このごろでは、利用するうちに他団体の活動も目にするようになり、情報交換をしたいという声が聞こえるようになりました。そして、団体、個人がつながり、お礼を言われると支援センター冥利に尽きます。今年も交流の機会をあの手この手で考えてセッティングしていきたいと思っています。お気軽にご参加ください。 拠点やまと 関根孝子

<送付の際、同封されているご案内>  
連続共育セミナー第28回「平和の種をまきたい」のお知らせ

★やまとっこ☆みつ FMやまと 71.1 MHz 『やまとっこ☆みつ』 9:00 ~ 10:00

朝ラジ☆ホットスクランブル 大和市民活動センターだより 『やまとっこ☆みつ』

隔週(火)生放送 9:00 ~ 10:00

★やまとっこ☆みつ FMやまと 71.1 MHz 『やまとっこ☆みつ』 9:00 ~ 10:00

第91回 ~人が宝のセンターです~

12/29(火)<拠点やまと>

大掃除の翌日、[拠点やまと]メンバー5人が活動をアピールしました。センター業務はいつの間にか分担ができ、メンバーそれぞれが業務の内容を説明。打ち合わせなしの出演だったにもかかわらず、関根会長の采配とジョニーさんの進行に助けられて、全員が過不足なく語る事ができました。大和市民活動センターは建物(ハード)だけでなく情報の受発信(ソフト)を充実させて、「センターがあつてよかった」と思ってもらえる活動を展開したい、とメンバーの思いを会長が熱く語りました。

第92回 ~地域社会とカイロの関わりを模索中~

1/5(火)<健康カイロの会>

カイロプラクティックは自然治癒力を活性化させるためのものなので、皆に知ってもらって健康に役立ててほしいと、会員の飯塚さんが語りはじめました。放送中、スタジオ内で自分で出来る身体の歪みチェックを伝授した後、今、肩こりが最高潮に達しているパーソナリティの千葉さんにカイロプラクティックを体験していただくことになりました。千葉さんが肩をぐーっと思い切り押し上げるのを会員の阿部さんが思い切りさげます。「2回くらいやってもらって肩をあげたら、やっていた右肩だけが軽くフツとあがったんです。左肩が鉛とすれば右肩は綿のような感じです。乙女と実年齢という感じで本当に軽くなりました」と体験後の感想を興奮ぎみに話したのが、とても印象的でした。

第93回 ~一歩踏み出したところでの出会い~

1/19(火)<ありがとうの和の輪>

「ありがとう」の文字から独特の世界が広がる“楽書き詩人”のひそかさん。15分で似顔絵を描く“趣ほのぼの絵師”のあずみさん。自分を空っぽにして相対する人から感じとることを言葉にする“格闘詩人”のひろゆきさん。それぞれが「路上詩人塾」に参加したのがきっかけで路上活動が始まった。人の歩く速さから自分だけが時間が止まったように感じる不思議な感覚になったが、普段の生活のリズムから一歩踏み出したところに出会いがある。という言葉聞いて、「何かを求めている、絵や詩のかたちにしてもらって、それが何かを受け止めているのじゃないか」とジョニーさんの感想でした。



「朝ラジ☆ホットスクランブル」は再放送があります。当日の 15:00~16:00 22:00~23:00

ラジオを聴いたら感想を FAX、メールで[FMやまと]へ。

FAX :046-265-2777

E-mail :morning@fmyamato.co.jp

<これからの出演団体>

第94回 2/2(火)ギャラリーあべ

第95回 2/16(火)大和市身体障害者福祉協会視覚部

共育。「ともいく」と読む。最初はかなりの抵抗感。この頃はすっかり頭のなかに定着。先日「共同募金」を「ともどうぼきん」と読んでしまった。(小杉皓男)

悠然たる巨木も時間をかけて大きくなりました。育つには時間がかかります。ゆっくりゆったり共育していきましょう。(中山みゆき)

いっしょに育つ“共育”のセンター。でも何かきっかけが無いと動けません。「たたき台」を作って恥をかくのも大切な活動です。(望月則男)

300 近くの団体がセンターに登録。活動のつながりで共育し、有効な社会資源として創出。HPも整えてきています。その PR も大事。(浅見正明)

熱血編集後記



共育マーク 気がつきませんか。

隅から隅まで ズ・ズ・ズイッと共育でいきましょう。

バラの鉢替のことで、顔みしり程度だった人と話がはずみ、お互い情報交換。ピンポイントの話からも共育は始まる。(村山真弓)

なぜボランティアをしているのか、それは自分の足りないところを知るため。反省し次の機会に備えます。ご迷惑でしょうが共育なのでご勘弁を！(関根孝子)

共育 共に育ち合うためには、お互いの情報を伝え合う事が大切です。いつでも、いろんな情報が溢れて交錯しているセンターでありたい、と思っています。(櫻井貞代)

ひとつの目的に向かうとき、得手、不得手がちょうどまくかみ合うと、目的は達成する。センターのなかで育てられている現実感謝。(石川美恵子)

\*今号の用紙はもえぎ色。何かいいことが始まる予感のする色です。

「あの手 この手」第36号 発行日・2010年1月20日

発行・大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館・月~土 9:00~18:00> 〒242-0021 大和市中心 1-5-1

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788 E-mail:yamato@ar.wakwak.com http://www.kyodounokyoten.com/



[拠点やまと]が制作発行する  
大和市民活動センターの広報紙・月刊「あの手 この手」。

1月20日付け第36号をお届けします。

不意を突かれるというのでしょうか。

これはどうしたことかと思う記事に出会いました。「朝日新聞」の去年12月1日付けの記事。大きくタイトルに「小中高の暴力6万件 2008年度前年比7千件増」。文科省の発表です。

中学校で前年度比16%、小学校で24%増と全体の暴力件数を著しく押し上げていると。

原因はなにか。文科省や教育委員会の分析は「コミュニケーション能力の不足」「感情をうまく制御できない」という子どもの気質の変化が背景にあるとみると記事解説に。

そこで、キレずに問題解決できる子どもを育てるため、「セカンドステップ」という米国から導入した教育法の普及を公立小中学校のいくつかで進めるとある。「セカンドステップ」のプログラム例として女の子が泣き虫と言われ、むっとしている場面の写真を見せ、「女の子はどんな気持ち？」

「悪口を言い返したらどうなる？」と尋ねてゆく。以前なら成長の中で自然に身につくような基本的な気持ちの学習からプログラムは始まる。「解決策はたくさんあることを伝えるのが大切です」と。教育委員会でも子どもに感情のコントロールを覚えさせる取り組みが始まっていると同日付けの関連記事にありました。

この「小中高の暴力6万件」記事を見て、言いようのない「抑えつけられたもやもやとした怒り」が子どもの心の底流にあるのではないかと私は思いました。

上に紹介したような教育委員会の対処がある一定の効を奏するかもしれませんが。「怒りを制御できぬ子ら」に『相手の気持ち』指導」とその関連記事の見出しにありました。

また「指導」なのかあ……と、思いました。

私は即効対処法にはならないとよく承知しながらも子ども（この際、とりわけ乳幼児）時代にたっぷり、そして思う存分「あそぶ」経験ができる時間と空間の環境を大人や行政が子どもの声に耳を澄ませて聞き、子どもといっしょに考え、つくっていくことがなにより今、大切なことなのだと思います。「相手の気持ちを理解するというハウツー」を上から与えられる机上の技術習得ではない方法、自分自身の手で獲得し、生涯身につく他者と交わる術は「あそび」のなかにこそあるのではないか。この理屈は子ども時代、「蛙（カエル）が鳴くから帰ろ」までちゃんとおそんだ大人はちゃんとわかっているはずです。 2010/01/20 [拠点やまと]広報係・小杉 皓男[記]

